

# 新任教員挨拶

## ○電子機械工学科 河合 智賀

2020年4月より電子機械工学科に着任しました、河合智賀(かわい ちか)と申します。皆さん、よろしくお願いいたします。

私の出身地は広島市の旧・広島西飛行場のすぐ近く、飛行機存在を日頃から身近に感じて育ち、家族の事情で東京に引っ越してから都立航空高専(現・産業技術高専)に進学しました。さらに言うと、大学院で研究していたテーマ(核融合プラズマ乱流)は、実は海洋流にもよく見られる渦構造(来島海峡の渦潮は有名だそうですね)とも関連が深いとも言えます。今こうして瀬戸内に、今度は飛行機ではなく船の学校に、高専教員としてやって来たことを思うと、何かと縁を感じます。



さて、皆さんは座学と実習・実験と、どちらが好きですか？おそらく、実習や実験では実際に自分の手を動かして作ったモノがカタチになって動くのが楽しい、でも座学はちょっと…と思ってる人も多いんじゃないでしょうか？

私が担当する応用物理1、2の授業は特に、数式がたくさん出て来て難しいな、と思うかもしれません。しかしこのような基礎科目の学習は今、学生のうちだからこそ時間をかけてじっくり取り組んでほしいと思います。

私は高専から大学編入するとき、さらに大学の学部から大学院へと進学するとき、2回も専門分野を変えています。このような場合、専門科目の知識はほとんどゼロから学ぶ必要がありますが、どの分野でも通底する理論としての物理、数学は共通しています。

これらの経験から痛感したのは、「物理」「数学」といった、理工系のあらゆる分野の基礎を成す科目を土台として自らのなかに打ち立てればこそ、その上に立派な建物(理工系の様々な応用分野)がどっしりと建つのだ、ということです。

皆さんも就職してから、必ずしも高専の実習・実験、卒研で学んだこととは関係ない仕事をすることもあるでしょう。しかし理工系であれば、物理の考え方はどこにでも顔を出してくるはずです。そんなとき皆さんの仕事の支えとなるよう、物理学を学生のうちにしっかり学んでほしいと思います。

本年度は前期から遠隔授業でスタートとなりましたが、幸いにして(?)座学であれば遠隔でもある程度は対応できるはずです。例年と異なり大変なこともあるでしょうが、一緒に頑張っていきましょう！

## ○総合教育科 池上 彰

この春から総合教育科に採用された、池上 彰（いけがみ あきら）といます。よろしくお願いいたします。担当教科は外国語（英語）です。私は、この島の対岸である広島県三原市で生まれ育ちました。三原といえば、やっさ祭りや蛸が有名ですが、筆影山や線路沿いの海岸に代表される風光明媚な景色が何ととっても魅力です。



私は、子どものころから川や海で釣りをし、山で鳥を追いかけ、季節を感じながら大人になりました。英語との出会いは中学1年の時。担任の先生が先生でとても厳しく、また情の厚い方だったこともあり、やる気を出してどんどん成績が上がりました。ギターを弾きながらビートルズをはじめ、洋楽を聞いていた自分にとって、英語とは、「芸術・文学」だったのです。大学は関西方面でした。短期留学でアメリカのシアトルに滞在した時のことです。それまでの、英語学習に新風が吹き込まれました。「覚える」英語から「活用する」言語に魅了されたのです。地元に戻り、高校で英語教師として働き始めました。常日頃から心に持ち続けたのは、英語教育の中で取り扱う矛盾点だったのです。日本語は、主語を明確にしなくても相手に通じます。つまり、状況主体の言語です。ところが、英語は主語を明確化しなければならない人間主体の言語なのです。たとえば、

今日は車があまりいないね。（日本語）

We don't have so many cars in the street today. （英語）

日本語と英語を見比べて、皆さんも「おや？」と思った経験があるでしょう。日本語の中には省略しても相手に通じる部分が多くあります。私は、言語学でその違いも含め、レトリックという分野を研究しています。これには、必ず、人間の心理や生態学が絡んできます。英語＝難しい、あるいは、英語＝無理といった感覚を持っている人がいると思いますが、私が勧めるのは、「好きなこと、もしくは得意なことと結びつける」ことです。弓削商船高等専門学校には商船学科があります。船で使われる英語は航空業界や、普段の生活のなかでも使われています。多くの英単語は「船が運んだ」のです。情報工学や電子機械工学の世界にも英単語は目白押しです。それらに出くわしたら、まずは調べてみてください。コンピュータのウィルス(virus)なんてよくいますが、コンピュータには生きた細菌は存在しません。ではなぜその言葉を使うのか。「なぜ？なぜ？」という疑問を持ってみてください。また、一つの英単語には意味がたくさんありますが、それらは必ず関連性を持っています。そのことを意識すると、英単語の学習もあまり苦ではなくなります。

いきなりのスタートは遠隔授業になりましたが、方法が変わっただけで、学問に変わりはありません。わからないことや疑問点が生じたときは迷わず自分で調べ、メール等で質問してください。自分でどこまでやれるかがkeyになるのです。お待ちしております。

追伸：最後のkeyも「鍵」という意味ですが、この場面で金属のカギは使いませんね。そう、言葉は比喩的に展開して私たちの生活の中に潜んでいるのです。

## ○総合教育科 小原 侑己

2020年4月に総合教育科に着任いたしました小原と申します。科目は体育実技と体育理論を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、今年度は新型コロナウイルスの影響で例を見ないスタートとなりました。西洋諸国では一時的に外出禁止命令が発令され、違反をすると罰金を支払わなければならない出来事が起きました。日本では東京オリンピック、高校総体など様々なイベントが中止となりました。このような事態は仕方のないことではありますが、これまで部活動に覚悟を持って取り組んできた学生のことを考えると、残念でなりません。1つの見えない敵によって、我々の生活がこうも左右されるのかと思うと、恐怖を感じる今日この頃です。

ところで、このような社会情勢は我々にとって大きな損失ですが、チャンスでもあります。例えば、就職試験の日程は次々に延期されており、資格試験の日程も同様に延期が決まっています。すなわち、就職試験の応募書類を見直す時間や、資格試験の対策を行う時間が増えたということです。また、部活動を頑張りたいという学生はこれまでの試合の映像をみたり、練習での自分自身の感覚を振り返ることで課題点を整理する時間がとれます。またその課題点を改善するための時間もとれるでしょう(在宅でも工夫次第でトレーニング可能です)。

不謹慎かもしれませんが、このように視点を変えると、今現在の状況には様々な“可能性”が眠っているのも事実だと私は思います。私の好きな作家である故堺屋太一は「人生とは常に完全な正解のない問題を相手に「よりよい方」を模索しなければならない旅である」と述べています。私は、このような事態においても皆さんが物事を柔軟に考え、「よりよい方」を模索することを願っています。

学校が再開するまで、そして再開してからも何かと大変かと思います。弓削商船として1つのチームとなり、流行り病に負けない姿を世界中に見せつけましょう！